



# 岩松小学校だより



学校だより 第4号

令和8年4月24日発行

発行者 校長 真子靖弘

## 「共有」でつなぐ、子どもの心と地域の輪

去る4/15(水)、令和8年度第1回育友会評議員会が開催されました。正式には4/26(日)の総会での承認を経てのスタートとなりますが、会の中では、新役員の皆様の紹介をはじめ、各専門部の部長・副部長の選任、そして前年度からの丁寧な引き継ぎが行われました。



私は挨拶の中で、「**共育(きょういく)**」という言葉掲げさせていただきました。**保護者、地域、教職員が手を取り合い、共に子どもを育てる**。今、この「共育」がかつてないほど重要な意味を持っています。現代は少子化や核家族化が進み、家族の在り方も多様になっています。この変化を「子どもの視点」で見つめ直すと、ある課題が浮かび上がります。それは、「**子どもにとっての相談相手(選択肢)が減っている**」ということです。



私自身の少年時代を振り返ると、たとえ両親とぶつかって話ができなくても、そばにいた祖母や姉に心のうちを話すことができました。家庭の中に多様な人間関係があったことが、当時の私の安心感に深くつながっていたと感じます。しかし、人間関係が固定化されやすい現代では、子どもがSOSを発信したり、心を安定させたりするための「逃げ場」や「受け皿」が少なくなっています。

**だからこそ、学校・家庭・地域の三者が連携する「共育」が必要**なのです。親でも先生でもないけれど、自分の話を聞いてくれる地域のおじさん、おばさん。学校の先生には言えないけれど、家ではリラックスできる時間。そうした**「多層的なつながり」**を、**大人が協力して子どもたちの周りに作っていく**。子どもたちが**「誰かに必ず守られている」と実感できる環境を整える**ために、ぜひこの「共育」の重要性を皆様と改めて共有したいと考えています。

池田会長をはじめ、これまで本校の育友会活動を力強くリードしてくださった旧役員の皆様、本当にありがとうございました。

## 校長先生、漢字が間違っていますよ！

校長室の入り口に、子どもたちが自由に意見や感想、あるいは嬉しかったことなどを綴って投函できる「**公聴(こうちょう)BOX**」を設置しています。昨年度は二十二通の温かいお手紙が届き、私にとって何よりの宝物となりました。



先日、昼休みに遊びに来ていた子が、帰り際にそのBOXを指差してこう言いました。

**“校長先生、漢字が間違っていますよ!”**

「校長」ではなく「公聴」。その子は、私の答えを待たずに掃除をするために教室へ駆けていきました。

あの子に説明するべきだったかな、それとも鋭い気づきを褒めるべきだったかな……。去りゆく背中を見送りながら、そんなことを考えました。

実は、あえて「**公聴**」という字を使っているのには理由があります。それは、**子どもたちを「守られるだけの存在」ではなく、学校をより良くする一員、つまり一人の「市民」として尊重し、その声を広く、真摯に聴きたいという願いを込めているから**です。

それにしても、子どもたちの観察眼には驚かされます。大人が当たり前だと思っていることに疑問を持ち、まっすぐに指摘してくれる。その柔軟な感性に触れるたび、教育の面白さを再確認させられます。

「よく気づいたね。実はこれ、校長先生の『校長』と、みんなの声をしっかり聴くって『公聴』をかけているんだよ」と、次に会ったときに伝えてみようと思います。

「共育」の原点は、こうした小さな心のキャッチボールにあるのかもしれませんが。今年度も、このBOXにどんな心の声が届くのか、楽しみに待っています。

## 皆様のプライバシー(肖像権)を守るために

4/26(日)は、**授業参観・育友会総会**です。撮影は授業の妨げにならない範囲で許可しますが、**肖像権保護の観点からSNS等への投稿は固く禁じます**。他者の写り込みには格段のご配慮ご協力をお願いします。